

# 新体育館に関する特別委員会会議録

○日 時 令和元年6月18日(火) 本会議終了後

○場 所 全員協議会室

## ○協議事項

- (1) 新体育館の実施設計について
- (2) 工事について
- (3) その他

## ○出席委員

委員長	永田	公由	君	副委員長	山口	恵子	君
委員	丸山	寿子	君	委員	樋口	千代子	君
委員	赤羽	誠治	君	委員	平間	正治	君
委員	小澤	彰一	君	委員	篠原	敏宏	君
委員	中野	重則	君	委員	横沢	英一	君
委員	西條	富雄	君	委員	青柳	充茂	君
委員	金子	勝寿	君	委員	牧野	直樹	君
委員	古畑	秀夫	君	委員	永井	泰仁	君
委員	中村	努	君	委員	柴田	博	君

## ○欠席委員

なし

---

## ○説明のため出席した理事者・職員

副市長	米窪	健一朗	君
市民交流センター・生涯学習部長	赤津	光晴	君
スポーツ推進課長	田下	高秋	君
スポーツ推進係長	高谷	和則	君
新体育館建設プロジェクト係長	佐々木	高史	君
新体育館建設プロジェクト主任	中田	健太郎	君

---

## ○説明のために出席した参考人

前田・岡谷・安井・エイデザイン共同企業体			
前田建設工業(株) 関東支店 建築部 所長		松本	通孝 君
前田建設工業(株) 建築事業本部			
企画・開発設計部 チーフアーキテクト		生形	聡司 君

前田建設工業（株） 長野営業所 所長	富田 能邦 君
（株）岡谷組 中信支店 支店長	清澤 俊夫 君
（株）安井建築設計事務所 東京事務所 設計部 設計主幹	山野 信彦 君
（株）安井建築設計事務所 東京事務所 設計部 設計担当	江口 春花 君
（株）エイ・デザイン 代表取締役社長	西村 文彦 君
明豊ファシリティワークス（株）	
PM本部 第二部 次長	遠藤 真人 君

---

#### ○議会事務局職員

事務局長 横山 文明 君	事務局次長 赤津 廣子 君
議事総務係長 小澤 真由美 君	

---

午後2時40分 開会

○委員長 それでは全員おそろいになりましたので、新体育館に関する特別委員会を開会をいたします。

この際申し上げます。本日の委員会には、あらかじめお手元に配付してあります出席者名簿に記載の皆さんに、参考人として出席していただいておりますので御了承を願います。また、改選後初めての委員会でありますので、新体育館建設プロジェクトの職員の自己紹介をお願いいたします。

[職員自己紹介]

○委員長 ありがとうございます。

それでは理事者から挨拶を受けることといたします。

---

#### 理事者挨拶

○副市長 本会議終了後、お疲れのところ恐縮でございます。新体育館に関する特別委員会を開会をいただきまして、大変ありがとうございます。委員長からお話がありましてお入り改選後初めての委員会でございます。るる長い間にわたってこの委員会で御議論をしていただきまして、ようやく7月4日に新体育館の起工式を迎える運びとなっております。今まで大変に御尽力をいただいたことに対しまして、改めて御礼を申し上げる次第でございます。まだまだこれから基本設計の実施設計につきまして、あるいはこれから工事が始まるわけでございます。何とぞよろしく御指導をお願いをいたしまして、挨拶とさせていただきます。

---

#### (1) 新体育館の実施設計について

○委員長 それでは、ただいまから協議事項の審査に入ります。事務局の説明を求めます。

○スポーツ推進課長 それでは資料No. 1、新体育館の実施設計及び工事についてとなります。

1番の趣旨につきましては、前回開催いただきました特別委員会3月18日におきまして、実施設計の主要な部分につきまして説明させていただきました。今回の特別委員会につきましては、内装のデザインコンセプト、意匠、カラーリング等について現在の検討状況を報告させていただき、御協議をお願いするものでございます。

特に木曽漆器を活用させていただく関係から、製作期間等を考慮した場合、大筋につきまして本日決定いただければと考えておりますのでよろしく願いをいたします。

2番を飛ばしまして3番の経過でございます。前回特別委員会以降、4月23日に市民を対象といたしましたデジタル内覧会を、これは実施設計の内容の説明となります。また、5月21日に工事箇所周辺の市民の皆様への工事説明会を開催させていただいております。また現在、先ほど副市長から挨拶がございましたとおり、7月4日の起工式に向けまして現地の仮囲い、表土のすき取り等を行い、基礎工事に向けた造成を実施しているところでございます。

4番、今後の対応となりますが、マスタースケジュールに従いまして令和3年4月の開館に向けまして事業を進めてまいりたいと考えております。

それでは別紙1、新体育館に関する特別委員会資料の説明となりますが、準備をさせていただきたいと思いますので、しばらくお待ちください。

それではよろしくお願いいたします。お手元の資料と同じものを現在プロジェクターのほうに投映させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。表紙につきましてはメインアリーナからサブアリーナ側を見た内観のパス図となります。おめくりいただきました1ページ、本日の説明内容となります。1番実施設計について、2番工事について、3番今後のスケジュールについてとなります。

それではまず最初に1の実施設計につきましてですが、こちらにつきましてはデザインコンセプトや意匠の考え方などイメージいただく部分も多いため、本事業の設計主任技術者を務める(株)安井建築設計事務所の山野氏から説明したいが、委員長よろしいでしょうか。

**委員長** はい。それではただいまから実施設計について説明を受けるわけでございますけれども、委員の皆さんにおかれましては想像力を働かせて説明を聞いていただきたいというふうに思います。それでは設計主任技術者山野信彦参考人、よろしくお願いいたします。

**○安井建築設計事務所(山野信彦君)** では、先ほど御説明をいただきました実施設計の内容について、特にデザインモチーフですとか、デザインの色彩の計画、案内板といった誘導サインについての御説明をさせていただければと思います。お手元の資料と同じものが表に出ていますので、見ていただければと思います。

まず最初めくっていただきまして、2ページ目、実施設計についてというふうに左側に記載しておりますが、デザインのモチーフについて少し簡単に御説明できればと思います。今回の設計に当たりまして、塩尻の連なる美しい山並みや、スポーツの躍動感といったものを今回の建物の中に取り入れていきたいというふうに考えておりまして、そういったところから、この真ん中に記載しておりますように、スポーツの輪が多世代で重なり広がる塩尻市総合体育館というものをキーワードにしていくことを考えて、今回は円をモチーフにしたデザインにしていきたいというふうに考えております。と言いますのも、右上のほうに少し文字で記載しておりますが、円や曲線の重なりによって、楽しさやにぎわいといったものを建物の中で表現できるのではないかと考えております。具体的には、案内板や誘導サインといった小さいものにはこういった形のイメージの小さな円を用いて、内装や外構など大きな場所については大きな円、こういった下のイメージといったものを用いることで、おらかな曲線等も用いながら計画をしていきたいというふうに考えて実施設計を進めてまいりました。また、あわせて漆ですとか県産材についても、曲線を生かして立体的な美しさを表現できればなということを考えて設

計をしております。

続きまして3ページ目のほうに、色彩の計画のコンセプトについて御説明できればと思います。3ページ目、左の上に記載をしておりますが、色彩計画のコンセプトということで、外装については、周辺環境と調和する明るく落ち着いた色彩計画としていきます。内装については、落ち着いたベースカラーの中にスポーツの活気やにぎわいを感じられるようなアクセントカラーを配置しまして、元気で活発なスポーツ施設を表現できればと思っております。具体的には図の左の下に記載しておりますが、外装、こちら交差点側からのイメージパースになりますが、外装についてはベースの色としては白のライトグレーをベースとしまして、シンプルですっきりとした計画にしていきたいと思っております。白系のベースの外装に対して、おおらかな曲線の屋根については落ち着いた黒系にすることで屋根を浮き立たせて、周辺の山並みと調和した外観にしたいというふうに考えております。

続いて、右下のほうの内装の漆器材計画についてですが、木をふんだんに使った温かみのある内装とし、アクセントカラーには木曽の漆や長野県の木材の素材感に合う伝統色を用いて多様な色使いとすることで、塩尻市らしさの中に活気を感じさせるような空間にしていきたいというふうに考えております。全体の色彩のコンセプトとしては以上のようなところになりますが、次に、具体的にメインのアリーナについて御説明できればと思います。

めくっていただきまして4ページ目です。こちらがメインアリーナを南西のほうを向いて奥にアリーナコリドールやサブアリーナが見えてくるようなパースになりますが、主な色の選定したものとしましては、観覧席の部分の色と、あとは周りの防護パッドの部分の色というのが面積的にも大きいというところもありまして、選定をさせていただきました。観覧席については周りの青空をイメージして、あとはスポーツ施設ということもありますので、爽やかなスポーツらしい印象の青色を選定をさせていただいております。また、周りの1階のアリーナ部分の防護パッド、こういった部分の防護パッドの部分につきましてはグレーというふうにいたしまして、青との相性がいいことと、また外装の色を基本的にライトグレーベースにしていますので、そちらとの相性というものも考えてライトグレーの色というものを選定をさせていただいております。こちらが内装のアリーナ部分です。

続いてめくっていただきまして、2階のランニングコース部分についてです。ランニングコース部分については、こちらのパースはまだ検討中のパースになりますが、右上の平面に記載しておりますように、メインアリーナに対してA、B、C、Dと4つの観覧席のゾーンがございます。4つの観覧席のゾーンのうち、この1階のエントランスから上がってきた階段のすぐのところ、Aのゾーンについてはこちらの下のパースにあるような形で、ゾーンの色として塩尻市のカラーを取り入れて、この柱のランニングコース側の色ですとか、サインについている色というものを塩尻市の色を使って、Aのゾーンについてはこの色を使っていきたいというふうに考えております。あわせて、それ以外のB、C、Dについても、日本の伝統色の中からこの塩尻市のカラーのトーンと合うような少し対比的な色を選定させていただきました。B、C、Dのそれぞれのゾーンのランニングコース側の柱の色ですとか誘導のサインの文字の色等について、こういった色を使っていきたいというふうに考えて選定をさせていただいております。以上の2つのパースが、ランニングコースやメインアリーナについての御説明になります。

続いて、6ページ目が、入って正面のエントランスの脇のスポーツフォーラムあたりのパースになります。こちらの左部分がラウンジ機能として使えるスポーツフォーラムで、右の部分が正面にいきますとアリーナコリ

ドー、メインアリーナとサブアリーナの間の部分につながる通路になっております。基本設計時のベースでいきますと、この右上のような形で下のエントランスの部分の色としては、ライトグレーと少し濃いグレーというのが床に使われているようなイメージで考えておられましたけれども、今回我々の御提案としましては、下のベースのような形で、少し入ってエントランスの部分、スポーツフォーラム部分を含めてベージュを使って少し温かみを感じられるような空間にしていきたいというふうに考えて御提案をさせていただいております。また、ベージュも明るいベージュとすることで、奥の濃いグレーとの対比というものも出てくることで少しすっきりとした印象になるとともに、ちょうどこちら側の上下側の切りかえのラインにもなりますので、そういった機能的なラインの明示というものにも使っていこうと考えて計画をさせていただいております。こちらが入って正面のエントランスの部分です。

めくっていただいて、その次のページ、7ページ目がエントランス入って正面の左側のほう奥がアリーナコリドーになっているようなところになりまして、先ほどの全体的に天井が木に包まれたようなイメージのエントランスの中でサインに塩尻市の色を用いることで、こちらの誘導する案内のサインですとか、メインアリーナやサブアリーナの場所を示す文字のサインといったものに塩尻市の色を使うことで、エントランス風除室を抜けてすぐぱっと入ったところで塩尻市の色が目飛び込んでくるような計画にさせていただいております。

サインの細かい計画については担当から御説明します。

**○安井建築設計事務所（江口春花君）** よろしく申し上げます。サインの計画なのですが、エントランスの部分で一番誘導に対して情報を集約させたい部分でありますので、この柱の部分のサインの部分に色をつけて誘導をわかりやすくするようにしています。また、色を使うことによってそこに目がいくので、サインとしての機能としては見えやすい、わかりやすい機能にしています。この円の部分については木曽漆器を使う形にしまして、木の円盤のようなものに木曽漆をのせていくことによって立体的で動きのあるサインの計画としています。また、同じような円盤のものがトイレの部分にも各男女それぞれ6個ずつつけていまして、こちらにも動きのあるような立体的なサインにしております。

次のページめくっていただきまして、8ページ目に階段の壁の部分の内装があります。入って右側に階段があるので、こちらの壁、今、円や曲線を使ってスポーツの球の軌道のようなモチーフにしています。こちらで動きのあるようなデザインとしています。1階と2階をつなぐ部分ですので、すごく大切な部分なので華やかになるような内装としています。この上の部分は県産材を使って、この円の部分は先ほどと同じように漆を使うような計画としています。この漆の部分は右側にありますように木曽漆の伝統的な技法を使いまして、この円にはこの技法、この円にはこの技法をみたい形で、いろんな技法を来ていただいた方に見てもらえるようなインテリアにしています。

次のページめくっていただきまして9ページ目、エントランスを入りましてすぐ右側にありますカウンターの側面の部分にも漆を使わせていただいております。この側面に使うことによって、入ってすぐの部分からも見えやすいような形になっています。木曽漆はほかの地域の漆と違い、家具に使われるほどすごく耐久性の高い漆だとお聞きしていますので、特徴が存分に生かされた計画になっていると思います。このパネルの部分には、今まだ検討中なのですが、塩尻の美しい山並みをモチーフとした絵柄を施していきたいというふうに考えています。

○安井建築設計事務所（山野信彦君） 以上で、実施設計の内容は説明終わりになります。繰り返しのようになりますが、外装についてはシンプルですっきりとした色合いの中に周囲の山並みと調和したようなものをつくりたいということ、また、内装については木をふんだんに使った温かみのある空間の中にサインやアクセントの色を使っていったりですか、案内板の中で塩尻市の特徴を生かしたものを設置してアピールしていきたいということを考えております。以上になります。

○委員長 それでは、ただいま説明を受けたわけでございますけれども、質疑を行いたいと思いますが、質問、意見のある委員の皆さんの発言をお願いいたします。

○小澤彰一委員 エントランス等の色についてはいいと思うのですが、体育館の中の色でグレーを使っているところ、ちょっと気になるのですが、例えば、バドミントンだとかあるいはバレーボールなどのようにボールそのものが白っぽいようなものの競技で、これ、支障がないかどうか、どういう基準でお決めになったのかということをお伺いいたします。

○新体育館建設プロジェクト係長 グレーの色でございますけれども、これにつきましては体育の施設をやっている会社のほうに確認をしてみました。グレーが支障ないかどうか確認してみたところ、ほかの施設で使っている中でグレーを使って苦情が来たことがないということは聴取を確認しております。

○委員長 いいですね。ほかに。

○中村努委員 素人っぽくて率直な意見ですが、外からの外形ですが、ライトグレーと黒というような、何か工場のように見えるのですよね。やはりスポーツのシンボルとなるような施設ですので、できれば塩尻をイメージするような色使いのラインを入れたりとか、わかりやすいというか、遠くから見ても塩尻の体育館だとわかるような何かできればいいのかなというふうに率直に思いました。

○スポーツ推進課長 貴重な御意見ありがとうございます。色使いにつきましては、例えば今、委員おっしゃるとおり、塩尻をイメージするような何らかのラインを入れるとかというような内容につきましては、これから施工段階で修正がきく部分でございますので、引き続き意匠担当と市のほうでただいまの御意見を踏まえまして検討をさせていただきたいと思っておりますので、決定した段階で特別委員会のほうに御報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長 いいですね。

○金子勝寿委員 どうしてもデザインとかやりたくなるのですが、長い耐用年数とか考えた場合は、あと費用のことも考えれば、色をたくさん使うよりは同じ色でやっていったほうが安いのは決まっているので、できるだけ長くお金がかからないでできるように、色を変えれば当然つなぎ目もできてくるし、塗膜のこともあるので、できるだけシンプルにつくっていただいたほうがいいのかなと思います。設計のほうで要望です。要はメンテの費用がかからない、これ、一番公共施設で大切です。よろしくお願いいたします。

○平間正治委員 アリーナの関係で、今、小澤委員質問してグレー系で問題ないということなのですが、確認されたのは、聞き取りにくかったのですが競技団体ですか。工事関係ですか。

○新体育館建設プロジェクト係長 具体的な社名出すのは控えさせてもらいたいところなのですが、運動施設の用具とかを販売しているメーカーのほうで、実際ここの防護パッドの色も、その会社がつくっているのを選定させてもらっていますので、あそこの会社が今までの成功実績であるとかそれをお聞きしたということで

御理解をお願いします。

○平間正治委員 確認で、いいということならそれでいいのですけれども、やはり卓球はボールの色変えとかいろいろやったりしていますけれども、競技団体の意見も競技団体としてそういうものを持っているはずなので、もし確認できたらしておいたほうがいいのかなというふうに思います。

それと7ページ右側のトイレの関係なのですが、男女それぞれ入っていくところの、この図で言うと中のところに6つの何かがあるとおっしゃったのですけれども、こういうところとか男子トイレだと右上、女子トイレだと左上のところに何かありますけれども、ここにはトイレみたいなものは具体的に表示されるのですか。我々だと、オリンピックなんかでも使うのですけど、少し改正されて使うのかな、男だとかいうのとか女性だと赤いスカートはいたのを条件反射的に思い出すのですが、何かわかりやすいものにしておいたほうがいいかと思うのですけれども。

○新体育館建設プロジェクト係長 今回、内装の意匠関係で説明していませんでしたけれども、こういうところにつきましては突き出しの壁から出ているサインをつけるということにさせてもらっていますので、廊下から見たときも何の施設かわかるようなサイン、例えばトイレであればいわゆるトイレマークが突き出して見える、これちょっと見えないですが、突き出しへピクトグラムと言うのでしょうか、目で見てわかるサインと、あとは文字情報を出しまして、読んでもわかるということで誰もがわかりやすいサインということで、見えるように計画をしております。

○平間正治委員 9ページです。カウンターへ木曽漆器を使っていたかということ、その耐久性もあるということなのですが、要らぬ心配かと思えますけれども、このカウンターの天板が出ていて、そちらへお客さん見えて私が内側にいるとすると、この天板が外へ出ていて、実際の垂直になる部分との差があるとそんなに気にはならないのですけれども、これ一緒だと寄って近づいて書いたときなんか爪先に当たったりすると思うのですよ、靴の。そういうときの耐久性、これはまず直ですよ、これ見ると。これは輪島のイメージだろうと思えますけれども、そこら辺は要らぬ細かい心配ですけど大丈夫なのかなと。

○安井建築設計事務所（山野信彦君） 詳細はまた今後施工段階でも詰めていきますけれども、今少しカウンターの部分でこの写真とは違って、少しこのあたり見ていただくとカウンターの部分が少し手前に出て、このカウンターのボディーの部分は少し下がっているようになっているのと、あとは一番足元つくところについては、ここ少し奥に入ってくるような形でありますので、爪先が一番当たりやすいと思いますので、このあたりは奥にしていくのと、この下の部分には漆は使わず一般的な角材を使っていくこととなりますので、漆等に傷がつくということは比較的少ないかなというふうに考えております。

○平間正治委員 わかりました。

○西條富雄委員 木曽漆器をかなり使っていただきまして大変ありがとうございます。いいことだと思いますけれども、当初にこの木曽漆器を使うということなかったものですから、コストの面に関して心配しているのです。その辺についてはどうでしょう。

○スポーツ推進課長 コストにつきましては、今実施設計が完了する段階で確認をさせていただいておりますけど、当初契約の事業費の範囲でおさまる予定で、実は今、建築確認申請をしてあるのですが、その中でも若干の修正等の指示をいただいておりますので、その細かな部分での実施設計が完了したかと言われると数円単位でま

だ動いているイメージになりますので、現在のところコストでおさまるように調整をさせていただいているという表現をさせていただきます。それで、木曾漆器を使うことによって、当然コスト的な部分もかかるわけですが、こちらにつきましては設計・施工者を選定する段階の地域に貢献する部分の御提案をいただく中で、木曾漆器を活用いただけるということで、提案どおり活用いただける御提案をいただく中で、現在進めておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員長 よろしいですか。

○篠原敏宏委員 同じく今の8ページに、木曾漆器を使っていたとということで本当にありがとうございます。木曾漆器は技法がいろいろあって、ここで今見ると、いわゆる伝統工芸品としての木曾漆器の3つの技法をちゃんと使っていたとあるので、これはとてもありがたいし工夫のしようがあって、このことを通じて地元の例えば若い技術者とか職人さんが成長できるような、そういう工程をぜひやっていただきたい。その中で1つ質問なのですが、下地はもう想定をされていますか。

○スポーツ推進課長 想定の中で現在細かな部分につきましては、設計・施工者と木曾漆器協同組合のほうで相談をさせていただく中で進めておりますので、当初JVの見込んだ事業費の範囲内で、可能な限り木曾漆器を使う中で事業を進めていくというような形になりますので、ぜひ御理解をお願いいたします。

○篠原敏宏委員 ということは、まだ決まっていないということですね。今、木曾漆器の中では塗りの技法を、特に伝統的な技法というのはこの3つの技法が国の文化財の指定の中では指定をされているので、ここにこだわるというのは非常にいいと思うのですが、素材については今いろいろあって、研究されている方がいまして、例えばアクリル、金属、革、木以外にそういった素材を用いて色目との合わせ方もいろいろ研究している方、ガラスもあります。そういう中ではバリエーションがありますので、ぜひそこら辺を現場の職人さんたちと話をして、幅広いそういう技法をぜひやっていただきたいなど。ただし色については、例えばワインカラー、塩尻市のカラーを使っていたとすると、この色を出してというのは非常に難しいのではないかなど、結果塗ってみたら、近い色だけでも何となく伝統色とは違うなということもあり得るので、ぜひそのあたり、これは要望ですが、綿密に打ち合わせをして試験を繰り返してやっていただきたいなど、それによって職人さんたちの今回勉強の機会になるというふうに考えますので、ぜひ考慮していただきたいと思います。これは要望にさせていただきます。

○委員長 山野参考人にお伺いしますが、参考人としては、下地はどういったものを想定されて今回提案されていますか。

○安井建築設計事務所(山野信彦君) 基本的には、木をベースにさせていただこうと思っております。ただ、今あったお話もでございますので、組合とも今、調整しているところですので、今後そのあたりを含めてどういったものが望ましいのかというのを、少し相談させていただきながら決めさせていただければと思います。

○小澤彰一委員 同じく漆器の部分で、円形のものに単色で漆を塗るってそんなに難しい技術ではないですよ。ただ、カウンターのところは輪島の例が載せられていますけれど、輪島だからこれ蒔絵だと思えるのですよね。蒔絵、漆器の世界では職人の分野とそれから芸術家としての分野とあって、日展の4科あたりのところで入選されたり、審査員になるような方も木曾平沢にいますので、もし、これだけの大きさのものをつくるとなると、ピンからキリで値段のつけようがなくなる。それくらいのものでいいですよ。もし、沈金の技法で大手の大企業で正面玄関に出すなんてのは、本当に数百万円、数千万円という世界になるので、これ、どういうふうにお考えにな



っているのかよくわかりません。

○**スポーツ推進課長** 輪島塗のカウンターが大変目を引いてしまうところなのですが、これイメージですので、一応私どもの考えているカウンターにつきましては、大きな板に木曾漆器を塗っていただいて、その中に山並みをモチーフとした絵柄が若干載せられれば良いということで、検討をさせていただいている段階でございます。いずれにつきましてもエントランス、玄関を入れてすぐのカウンターのところに重厚ある木曾漆器が塗られるということで御理解をいただければと思います。

○**委員長** 予算から出ないように、それだけをお願いをしておきたいと思います。

○**金子勝寿委員** ちなみにお幾らで積算していますか、この漆器のカウンター。要は全体の金額よりも余り華美なものじゃないほうがいいかなと。

○**スポーツ推進課長** こちらにつきましては、私どもが絶対漆器を使えということで積算をしているものではございませんので、あくまでJVと木曾漆器協同組合の民民の商取引になることを、まず御理解をいただきたいと思います。

○**前田建設工業（松本通孝君）** 組合といろいろと打ち合わせをさせていただいて、今のカウンターの仕上げ、側面は蒔絵で考えています。沈金とかそういうことではなくて蒔絵で山並みを表現したいなという話をしています。ざくっと言いますと、今のカウンターだけではなくてエントランス、それから階段、こういったものの漆についての予算は見ています。

○**委員長** はい、わかりました。業者のほうで考えていることですので、こちらが余りいろいろ言う、予算の範囲におさまっていれば良いと思いますけれども。

○**牧野直樹委員** あくまで私は、シンプルな体育館だと思っていた、今まで。そういうことでお話を聞いてきたし、その内装のことまでは詳しく言わないで突然きょう出てきて、いきなり木曾の漆器のサインパネルだとか言われて、これは木曾の漆器組合が寄贈という話かと思って聞いていたが、体育施設にそこまでする必要があるのかどうかというのも、しっかり考えてもらいたいと思うし、あくまでもいろんなことで決まった体育館なので、5対5の割合の体育館なので中間委員もさんざん言ってきているけど、そういう形の中のシンプルな考え方でつくっていただければ、別に美術館じゃないので体育施設、あくまでも。確かに木曾の漆器を使う、でもそんなにお金をかけて使う必要はないんじゃないかなと思います。以上です

○**委員長** 意見として伺いしておきます。ほかにいかがですか。

○**小澤彰一委員** 繰り返しになって申しわけないんですけど、さっき中間委員も言いましたけれど、やはり競技団体に実験をしてもらう必要があるかなという気がするんですけど、体育館の中のアリーナの色ですけど。ですからブルーの客席のところで、シャトルcockがちゃんと見えながら、ふっと上に上がったときに消えてしまうというようなことが起こったら、後でこれ、修正がきかないですよ。だから、やはり実験をするなり合意を得るなり、何かしたほうが後々のためになるのではないかなという気がしますが、御検討できるなら、していただきたい。

○**牧野直樹委員** 競技者として言うけど、プレーは全く関係ない。

○**スポーツ推進課長** 先ほど係長のほうからお答えさせていただいたとおりでございますが、基本的に製造するメーカーだとか用具を販売するメーカー、また、全国規模で体育施設を運営している事業者等のヒアリングを経

まして、支障のない色ということで検討をさせていただいておりますが、当然、新体育館完成後は長野国体の会場になることが想定されますので、そういった全国大会があっても支障のない色使いにつきましては、今後も検討を重ねて最終決定をしていきたいと考えておりますので、御理解をお願いいたします。

○委員長 小澤委員、いいですか。

○小澤彰一委員 はい。

○中村努委員 4ページのアリーナの床ですけど、多分ここにそれぞれの競技によるラインが引かれてコートができると思うのですが、それはどんな種目になるのかということと、あと先ほど国体等の話も出ましたが、そういう大きな大会ですとか、ちょっとした興行的な大会ですとか、床にシートを張ってコートをつくるような感じでやっていると思うのですが、その辺はどのように考えているか教えてください。

○スポーツ推進課長 日常使いの市民がスポーツを楽しむ上でのコートラインにつきましては、新体育館当初基本構想、基本計画等で、実施する競技を想定しておりますので、その実施する競技、想定したものの競技内容に基づいたコートラインを施工段階で引いていく形となります。また、国体とか興行的なスポーツにつきましては、委員のおっしゃるとおりコートマットを持ち込んで実施する形が現在主流ですので、そういった場合につきましては、コートマットを持ち込んでいただいて対応いただくこととなると想定しております。

○委員長 ほかにいかがですか。

それでは私のほうから。先ほど、中村委員のほうからは、外観の色についてはもうちょっと特徴を持たせて、線を入れたりとかいうような意見がありましたし、金子委員からは、後のメンテナンス等考えると、現在のこの1色でいいんじゃないかという2つの意見が出されておりますが、山野参考人にお伺いしますが、その場合、コスト的にどうなるのか、また維持管理について後々のメンテナンス等考えたときには、どのくらいの費用の違いが出てくるのかというようなことは、この場で今、お答えできますか。

○安井建築設計事務所(山野信彦君) おおむね、色、外装ですとか、内装の色の違いによって設置するとき、イニシャルコストについての差というのは、ほとんどございませぬ。実際には塗料の色が違うので、缶が違ったりというところがありますけれども、全体の量がかなり多いので、その量に対しての色の小さい違いというのは、ほとんど影響的には出てこないと思います。また、あわせて外装についても同じような形で、イニシャルコストとしては、ほとんど変わらないと思います。ランニングコストについては、基本的には塗装の塗りかえということになりますので、その塗りかえのタイミングで、これだけの量をするということになりますので、どちらかと言うと、塗りかえの頻度をどういうふうを設定するのかということが、やはりランニングコストに影響するところになりますので、どちらかと言うと、色の違いによってのコストの差というものは、ほとんど出てこないかなというふうに思います。

○委員長 わかりました。よろしいですか、委員の皆さん。ですから、一度検討していただいて、もう一度この委員会にかけていただきたいと思います。

ほかによろしいですか。

それでは、ただいま説明を受けました実施設計につきましては、課題として何点か挙げられておりますけれども、それについては再度委員会のほうに諮っていただくということをお願いをいたしまして、きょうの説明を受けた段階で、この実施設計については、おおむね了承するということでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○委員長 それでは、採用を決定させていただきます。

それでは、次に進みたいと思います。

---

## (2) 工事について

○委員長 工事に関するスケジュールと安全管理について、事務局の説明を求めます。

○スポーツ推進課長 10ページ、2の工事について、(1) スケジュール、(2) 安全管理につきましては、本事業の総括代理人の前田建設工業(株)の松本氏から説明をしたいが、よろしいでしょうか。

○委員長 はい。

○前田建設工業(松本通孝君) 前田建設松本です。では、御説明いたします。今現在、工事のほうは準備工事としまして造成のほう、それから仮囲いのほうを行っております。こちらが仮設工事です。仮囲いのほうを終えております。次ページに、また御説明いたしますが、南と西側、松本歯科大と跨線橋のある道路のほうは2メートルの仮囲い、それから北側と東のブドウ畑、あるいは畑のほうは高さが三、五、六メートルぐらいの高さの光と風を通す1ミリ目の細かい防じんネットを張っております。それで飛散防止とかを行って、今、進めております。工事のほうですが、7月、実際は6月末ですが、柱状改良という今ある土とセメントミルクを混ぜながら改良して、約四、五メートル、深いところで6メートルぐらいになりますが、杭として、既製杭ではなくて土にセメントミルクを固めていくという形の杭を始めていきます。その後、掘削等を行っていきます。それと、コンクリートとありますが、鉄筋、型枠、コンクリートで基礎1回、2回という形で年末まで行いまして、その後、メインアリーナは鉄骨ですが、上のトラス鉄骨を冬に行っていまして、引き続き、屋根工事、その後、外装、内装で、また電気設備が入りまして、外構につきましては、来年の春以降から順次、道路とか、あるいは植栽等。特に植栽については、9月、10月の一番いい時期に集中して行うという形で、契約工期は1月末なのですが、11月末にお引き渡しをしたいということで、今、工程のほうを考えております。全体工程は以上です。

次のページをお願いいたします。こちらが先ほどお話ししました仮囲いですが、この2面につきましては、高さが約2メートルの高性能鋼板パネルですが、これを今、行っております。それと、出入り口の両サイド、それから、ここのコーナー部分、こちらの出入り口の両サイドにこの透明パネルをつけまして、通行上の安全、車、あるいは反対側の人を通るといのがわかりますので、その安全も兼ねて透明パネル、また、外から透明パネルを通じて現場の中も見えますので、市民の方、楽しんでいただけるのかなという思いもありまして、透明パネルを配置しています。

それから後ろの部分です。今、1ミリ目の光を通す防じんネットを立てております。これは2段式になっていまして、台風とか風の強いときは、上部のここに、さらにもう1段あるのですが、この上のほうはカーテン式になっていますので、台風時、倒れないようにおさめて、また、すぐ復旧すると、台風が過ぎた後、復旧するというような対応をしていきます。もちろん、建物の中の工事のほうは、こういう工事用の道路、それから鉄板等を敷きまして粉じん等の出ないように、それから車の出入りについては、こちらの両方のゲートから行っていくのですが、通学時間帯、午前7時半から8時10分というのは、通学路の関係で、ここから車の出入りをしないよというということで、通行制限をかけていきます。また、住民説明会のときにもお話がありました、お子さんは、

こちらの道を通って、横断歩道を渡って行かれると伺っていますので、特に、こちらのゲートの出入りについては夕方も通行を制限して、メインはこちらから出入りをさせていただきたいと思っております。安全管理については、大きいところは以上でございます。御説明を終わります。

○**委員長** それでは、ただいまの説明について、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

○**横沢英一委員** 今、参考人のほうから仮囲いをされたということで、特に幹線道路のほうは中が見えなくなっていると思うのです。それで、せっかくこれだけ大きな工事で、塩尻にとっても最近大きな工事は余りないものですから、できれば、見学できるようなスペース、どこかに敷地内の邪魔にならないところにつくってもらって、見られるところがあればいいなと思うんですが、どうでしょうか。

○**スポーツ推進課長** 工事、これから本格的になってまいりますので、特にJVの皆さんは、安全管理につきましては、作業所内で無事故を目指しておりますので、事故が起らないように配慮していただいているところがございます。見学場所につきましては、我々としては、基本的には特定の、ある程度一定の安全が確保される時期に、小中学生の皆さんだとか一般の市民の皆さんに、何月何日何時から何時までの間、見学会を開催しますというような形で、特定のときだけ場内に立ち入る形でないで安全の確保が難しいと考えておりますので、現在の交差点側にあります透明パネルで中をごらんいただくとかで、何とか御理解をいただきたい。特に事故が有りますと、来年11月の工期が2カ月、3カ月遅れる危険が当然ございますので、見学会を開催するときのみの形で御理解をいただければありがたいと思っております。

○**委員長** 横沢委員、理解しましょう。

○**横沢英一委員** わかりました。

○**前田建設工業（松本通孝君）** 御遠慮なく、提案の話をしたのですが、小中学生の方、あるいは地元の技術者の方等、これはちょうどトラス鉄骨を建てているイメージなのですが、そういったときなど、いろんなイベント的に楽しいときがたくさんありますので、御遠慮なく何回でもそれは。と言っても、余り頻度は高くはないと思いますが、こちらのほうから御案内させていただきますので、市の方を通じて、また皆さんに御連絡をさせていただきたいと思います。

○**永井泰仁委員** 鉄骨工事の関係なのですけれども、これまで新聞報道等とか、いろいろな中で、オリンピック関連の工事だとか、大型のプロジェクト工事等があつて、鉄骨とかボルトとかナットとか、こういう部材が何か足りないというような報道もされていますが、今回その辺の調達はどんなものでしょうか。

○**前田建設工業（松本通孝君）** おっしゃるとおり、ハイテンションボルトが、今、非常に納期が逼迫しているというのは、御存じの方もいらっしゃるかと思います。実際に私ども、今回、デザインビルドでしたので、早期に協力業者と色々な話をして、そういう情報網、私どもの会社、あるいは協力業者を通じて情報は入っています、4月の時点で既にボルトについては発注を終えています。4月に発注を終えているのですが、それでも10カ月かかるのです、その時点で納期が。ですから、まだ修正が終えてなくて申しわけないのですが、この低層部分の鉄骨というのが、当初は一緒にアリーナと建てたいと思ったのですが、それは無理がありまして、年明けの、例えば2月とか3月にずれ込むのです。外装もずれ込むのですが、全体的にはメインアリーナのこの工程が、屋根のトラスとか、仕上げが一番クリティカル、これが一番タイトな工程ですので、それについて、そこは問題なく先行していきます。そこの鉄骨はねじ込み式ですのでボルトがいらないので、問題なく先行していただけます。

そういったことで、クリティカル、一番重要なラインのものについては、問題なく仕上がりますし、この低層の部分は十分、最終工程までには間に合うと言いますか、落ち着いて慌てることなく工事のほうを進めることができいております。そういう予定であります。

○永井泰仁委員 もう一点。それから、コンクリート工事の関係ですが、この生コンの調達には松本平から調達ができるか、それともある程度遠くから持ってくるか、どんな計画でしょうか。

○前田建設工業（松本通孝君） 全て松本協同組合と言いますか、組合から調達になります。ですから、特殊なコンクリートというのは、特に予定はしておりません。いわゆる J I S 規格品というもので対応する予定でございます。

○委員長 ほかにいかがですか。よろしいですか。

それではこの件につきましては、説明を受け理解を深めたということで処理をさせていただきます。

次に、安全祈願祭及び起工式について説明を求めます。

○新体育館建設プロジェクト担当係長 先に御案内もさせていただいておりますけれども、改めまして起工式の御案内をさせていただきます。来月 7 月 4 日木曜日に、安全祈願祭を J V の主催、起工式を市の主催で実施いたします。当日でございますが、10 時から受付開始、10 時半から安全祈願祭、引き続き起工式を実施し、おむね終了は 11 時半を予定しております。御案内させていただいておりますが、現場の駐車スペースが限りあるものがございますから、委員の皆様におかれましては、市のバスで送迎をさせていただきたいと思っております。10 時に市役所正面玄関を出発いたしますので、お時間に間に合うようにお集まりをお願いいたします。以上でございます。

○委員長 この件につきましては、各委員の皆さんとも、出欠について事務局のほうへ報告を 26 日の最終日までをお願いをしたいと思います。

---

### (3) その他

○委員長 それでは、今後のスケジュールについて説明をお願いいたします。

○新体育館建設プロジェクト担当係長 それでは、今後のスケジュールになります。現在、6 月 18 日となっております。現在は、建築確認申請を提出いたしまして審査中となっております。今月末には、確認済みとなる予定で事業を進めております。また、別紙 2 におきまして、確認申請書に添付した図面の一部を添付しておりますので、また御確認してもらえればと思っております。

ハード事業につきましては、建築工事を、先程松本の説明にもありましたように、11 月末をめどに建築本体工事を完了いたしまして、引き続き分離発注といたしました東側の駐車場工事を実施して、建物本体、建物の工事としては竣工となります。ソフト事業につきましては、条例の制定、指定管理者の選定を実施いたしまして、開館の準備に備える予定となっております。現在のところ、順調に工事のほうは進んでおりますので、令和 3 年 4 月には開館できるものとしてプロジェクトとしては認識しております。また、先ほどありました現場の見学でございますが、工事の進捗状況に合わせまして、随時お知らせをしてみたいと思っておりますので、また、ぜひ御参加のほうをよろしくお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

次に、資料が全部間に合わなかったものですから、ドローンの画像をつけさせてもらいました。先週撮らせて

もらった画像です。JVのほうで撮っていただいたのですが、これは現在、交差点側から見た状況です。現場はもう少しあれからもうちょっと進んでいますけれども、今、整地が終わった段階となっております。このちょっと高台の部分がアリーナの部分になります。この平地になった部分につきましては、大体、体育館の大きさになりまして、この奥が駐車場です。手前に公園ということになっております。

次は反対側。JR側から見た形になっております。こちらが東側の駐車場で、体育館、公園という形になっておりまして、現場は、今現在、仮囲いが終了して造成がほぼ終わりました、確認申請を待っているという状況でございます。起工式のときには、現地に体育館の位置の縄を張りますので、来ていただければ、ここに体育館が実際に建つのだということが目に見えてわかるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。その他、委員の皆さんから何かございますか。

○牧野直樹委員 今、その写真で見てもらってもわかるように、その土地の表土というのが、すごくいい表土があって、私はここを毎日散歩しているのですけれども、常に土が山積みになっています。たまにダンプでどこか出ていくのも見るのですけれども、処分か何かしていますか。

○前田建設工業（松本通孝君） 農業委員会の方が、お話に来ていただいて、2トンダンプで10台ほどくださいという話が来まして、多分、見受けられたのは、そのダンプが出入りしているのだと思います。あるいは、ダンプが出入りしているのですけど、耕土ではなくて、近くのところから建設発生土を再利用で私にもくださいと手を挙げているのです。何千立米くださいと手を挙げていまして、それで近くのところからいただいて、それがたまたま今、4トンダンプで運んでいるのもありますし、春先2月には、こちらの部分の、今、田川の奈良井川の浚渫土が約2,500立米をいただいたりというので、私ども、皆さんの協力をいただきながら、いろんな情報をいただいて建設発生土をいただいたり、あるいは耕土をもちろんお出しをしたりしている状態でございます。

○牧野直樹委員 例えば、農家の人が土が欲しいという人がたまたまおられて、あそこの土は、ただもらえるかと聞かれたので、どうなのでしょう。

○前田建設工業（松本通孝君） 量はどのくらいですか。

○牧野直樹委員 そんなに。

○前田建設工業（松本通孝君） また、御相談ですけれども。

○牧野直樹委員 御相談に行けばいいですね、現場に。

○前田建設工業（松本通孝君） 御相談いただければ。

○新体育館建設プロジェクト係長 耕土につきましては、当初は現場で全部処理ができる予定だったのですが、やはり最終的に測量、設計、試算した結果、出ることは事実でございます。農業委員会のほうには、先月、土が出るので、もしも農業委員会のほうでありましたら、皆さんにアナウンスをお願いしますという形で、地元のほうにも、ぜひということでお声掛けさせてもらっていますので。

○牧野直樹委員 農業委員会に言ってみます。

○新体育館建設プロジェクト係長 農業委員会委員は皆さん知っています。ですので、直接、現場のほうに交渉と言いますか、話をしてもらえばと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○委員長 いいですか。

○牧野直樹委員 わかりました。

○委員長 それでは、以上をもちまして、新体育館に関する特別委員会を閉会といたします。大変御苦労さまでした。

午後3時37分 閉会

令和元年6月18日（火）

委員会条例第29条の規定に基づき、次のとおり署名する。

新体育館に関する特別委員会委員長 永田 公由 印